

第4回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成30年1月10日（水） 14：00～15：37

場 所：浜田市役所4階講堂AB

議事

- 1 会長あいさつ
- 2 資料説明（資料1～資料6）
- 3 協議事項
- 4 その他

1 会長あいさつ

事務局

明けましておめでとうございます。委員方には新年を迎えられることをお喜び申し上げます。

本日第4回目の審議会ということでご案内させていただいており、皆様方ご多忙の中、またこうした悪天候の中お出かけいただきありがとうございます。

前回第3回が11月9日に施設の見学ということで実施させていただきました。4回目はできるだけ早いうちにと考えたが、12月議会あるいは教育委員会事務局が年末に引っ越したということもあり、本日の開催となった。昨年に引き続き委員方の慎重審議を承ります様、簡単だが本日もよろしくお願ひしたい。

事務局

本日の会議は10名の委員方に出席をいただいているので、半数の7名以上ということで本会は成立をしているということで報告をさせていただきます。

会 長

改めておめでとうございます。今年もよろしくお願ひしたい。

事務局からご挨拶があった様に、大変天候が悪くなった。年末年始は穏やかな天気であったが、昨夜から大寒波に入り、私は旭町だが出るときには30センチ以上の積雪であった。今週いっぱいどうも大雪が降るだろうという予測である。委員方には大変足元の悪い中お出かけいただきありがとうございます。

今日は特に第4回ということでご案内をさせていただき、お願ひをさせていただくが、昨年の11月9日に市内3校の施設の見学をしていただいた。特にその3校の比較検討を今日はお願ひしたいと思う。

その中で委員方の色々なご意見やご質問をいただけたらと思っ

ている。

寒い中だが、十分にご審議をいただく様、開会のあいさつとさせていただきます。よろしくお願ひしたい。

2 資料説明 (資料 1～資料 6)

事務局

資料 1 から資料 1-3 について、プロジェクターを用いて先日視察を行った雲雀丘小学校、石見小学校、国府小学校の学校毎の施設について対比説明。

説明した主な施設

トイレ、屋体、音楽室、家庭科室、給食用リフト等、教室、玄関、職員室、昇降口、図書室、多目的室、保健室、理科室、階段、廊下

会長

11月9日に視察をして、かなり日にちが経過しているわけだが、今日画面上で再度確認をいただいた。

続いて資料 2 の説明をいただく。

事務局

資料 2-1 をご覧いただきたい。写真関係の次の資料だが、残耐用年数の状況ということで、表面が小学校、裏面が中学校となっている。

各学校の構造耐用年数、非木造と木造とあるが、あと何年残っているかという資料になっている。

資料 2-2 をご覧いただきたい。先ほどの全体の中から耐用年数が 10 年未満、あるいは耐用年数の年数が過ぎているもののリストとなる。小学校が雲雀丘小学校、これは体育館以外は耐用年数が過ぎている。石見小学校があと校舎が 5 年 11 か月。美川小学校はメインの校舎がすでに耐用年数が過ぎているという状況である。

この 3 校が当面今後再編なり大規模改修をするのかという対象校ということで最優先に検討していただきたい 3 校となる。

中学校が木造の第四中学校、メインの校舎がすでに 63 年を経過しているということで、耐用年数はなしということになっている。一部増築をした部分だけが 10 年 9 か月というぎりぎりのところという状況である。

続いて資料 3-1 をご覧いただきたい。業者に委託してそれぞれの評価をしている。No. 小 1 の原井小学校だが、校舎、体育館と上下になっている。築年数はまだ 13 年で、20 年未満ということで青となっている。評価も A、B、A、A、A ということで健全度は 93、満点は 100 点だが当然原井小学校は新しいのでこういった高い点数が出

ている。こういった中で非常に低い点数ということで集めたのが資料3-2になる。抜粋をしたいいわゆるCランクのものがあるものが同じ様に雲雀丘小学校、石見小学校、美川小学校、第四中学校。やはりどうしても建築してから年数が経つとすべての構造的なものには傷みが出るということから評価上はこういったかたちでB、Cという評価が付く。

石見小学校はD評価が付いている。屋根の屋上、外壁、今雨漏りをしているが、どこから水が入るのかわからないという状況で中々改修ができていない。外壁も校庭側は耐震補強をした時に少し直した部分が結果的に繋がって色は綺麗になっているが、裏側を見ていただくと全然昔のままでひびだらけという状況である。

業者が調査をした上でもこの4校は早急に大規模改修をするのかあるいは建て替えをするのか、あるいは統廃合を含めた対応が必要なのかということが真っ先に必要なのがこの4校である。

あとは最初に申した様に地域性もあるので、特に自治区の関係の小さい学校はあるが、すでに一定の統廃合を済ませており、今はある程度距離が離れている状況で中々統廃合が難しいということから今回は特に旧浜田自治区をメインにお願いをさせてもらっている。その中で特にこの4校については非常に傷みがひどいということになる。

雲雀丘小学校は先ほど申した様に校区を分割するという手法を取れば当面对応は可能という状況になる。石見小学校は児童数も多いということから大規模改修なのか、将来的に全体の校区を再編するのかということも選択肢になるかと思う。

美川小学校は小中同じ敷地内にあるが、非常に古いということでも傷みが出ているが、少し他の地域と離れているということもあり、美川小学校も子どもが少ないので、校区を簡単に変えられるかということになるとスクールバス対応も含めて色々と検討事項が出る。単純に子どもの数と古いということだけでは、雲雀丘小学校のことを先ほど申した様に少し校区の割り切りをすれば子どもの受け入れは可能だが、美川地区はその辺も特殊性があったりするので、その辺も含めてご検討いただきたい。

事務局

続けて資料4について説明させていただく。第2回の審議会において委員方からご要望のあった案件である。

校区にかかってくるが、区画検討のための対象児童数と対象生徒数、地域毎の人数ということでお示しいただきたいという要望があ

ったことに対して、遅くなったが提示をさせていただきたい。

1 番目が、学校ごとの 11 月 30 日現在のそれぞれの児童数、生徒数を合計したものである。

めくっていただき 1 ページ目、原井小学校について、児童生徒数を記載しているが、それぞれの地区における人数である。同様に 2 ページ以降それぞれの小学校、中学校の状況を示している。

今後校区の検討等する際に人数等の検討資料になるかと思うので、ご確認いただきたいと思います。

続いて資料 5 をご覧いただきたいと思います。

こちらについても第 2 回の審議会において、委員方から要望のあったものを提示させていただくものである。中身については区画、いわゆる居住地エリアから学校までの距離というところでそれぞれの学校の距離を記載している。一番左が小学校の校区である。続いて左から 2 番目が中学校の校区で、どの様に通学区域が分かっているかということを見ていただければと思う。

参考だが、一番上のところで石見小学校区であれば中学校でいうところの第一中学校区に該当する。通学区域では長沢町の基準となる様なところを選んでいるが、そこから原井小学校までであれば 3.1 km、松原小学校までであれば 1.8 km といったかたちで見ていただけたらと思う。

これを見ていただくとそれぞれの小学校区、中学校区といったところで、小学校区と中学校区で分かれるところがあるかと思うが、その辺の校区の再編、見直しの参考になるかと思うので検討資料として提示させていただく。

今の校区の関係だが、第 2 回の時に地図で学校ごとの校区の範囲を色分けさせてもらっている。併せて、原井小学校と雲雀丘小学校の距離は 2.2 km であると出している。4.0 km を超えるとバスが必要かそうでないかということが出てくるが、2.0 km、3.0 km 未満で雲雀丘小学校だと原井小学校も長浜小学校も行けるということになる。非常に松原小学校、原井小学校、雲雀丘小学校、この辺りが狭いエリアで校区分をしているという状況があるので、これも併せて見ていただくと先ほどの町内毎の分けと見ていただければ若干シミュレーションができるかと思う。

もし委員方から A の学校を B に変えたらどうなるのかといったことを見たいという要望があれば資料を用意する。例えば雲雀丘小学校を原井小学校と長浜小学校に分けるとなればどういったイメー

事務局

事務局

ジになるかという資料がいたればまた次回準備させていただくことも可能かと思う。リストではすごく細かく作らせてもらっているが、殿町1町内に5人いたからといって、どうなるのかということは非常に分かりにくい面もあるかもしれないので、地図上でということがあれば可能な範囲ではあるが用意させていただく。

資料6をご覧いただきたい。先ほどの内容とは直接関係ないかもしれないが、こういった区分けをしているということを説明用に付けさせていただいた。

浜田市の小中学校の通学区区については、「浜田市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則」が定められている。

裏面にその小学校中学校毎の町内毎の通学区区を示している。基本は同じ小学校から同じ中学校へということでの分けをしているが、そこに書いてあるものについては小学校から中学校に上がる時に別々の学校に行ってしまうということが今の規則ではあるということを情報提供として付けさせていただいている。

原井小学校の児童は現在第二中学校へ行くことになっているが、紺屋町の子どもについて、小学校は原井小学校へ、中学校は第一中学校へ行く子どもがそれぞれいる状況である。

松原小学校は原則第一中学校が進学先だが、松原小学校から第二中学校へ通学すると定められている地域が外ノ浦町、松原町、殿町となっており、それぞれの地域にお住まいの児童生徒については松原小学校では63名、第二中学校では34名。小学校から中学校へ上がる中で違う中学校へ行くという子どもがいるという意味合いで資料を作っている。

会長
委員

事務局から一連の資料について説明があった。質問等あるか。

各学校の緊急避難用設備、備品については触れられなかった。例えば最新鋭の国府小学校では地震や津波、災害が起きた時にはどの様に瞬時に避難するシステムがあるといった様な説明がなかった様に思うがどうか。

避難口や非常階段の数、子どもが殺到するから幅が広い階段になっている等の配慮の説明がまったくなかった。備品として例えば子どもの人数、教員の人数の分だけのヘルメットはセットしてあるとか、そういったことはどうか。

事務局

設備についてだが、3階や2階には避難梯子の設置がある。ただ、あとは学校でどの程度訓練をされるかということになる。国府小学校など新しい学校は階段を左右に設けている。外廊下もあり、複数

の避難が可能である。

委員

雲雀丘小学校などは廊下を歩いてどちらかへ逃げるしかないと思う。当時の設計上は意識していないと思う。

学校によって教育用の備品の数がないとか、古い、新しいは我慢の中で良いと思う。しかし緊急用の問題になってくると命に関わるので、これは学校が古い、新しいの問題ではなく、せめて児童数のヘルメットくらいはすべてないといけないのではないかと思う。

私は波佐小学校の評議員をしていて、この間の会議で避難訓練するのに教科書で頭を隠すという話を聞いた。その様なことではいけないだろうと自治会からヘルメットを準備するという約束をしたが、すでに学校によってはそういう準備をしている学校があるのか。

事務局

今ご指摘いただいたことについて私どももひとつずつ承知していないが、避難訓練については6月や主には大雨の時期に向けて訓練されている学校が多いかと思う。出前講座をした後に津波を意識した訓練とか、もちろん火災に関する訓練は昔からやっているが、最近はや々なかたちの訓練の計画を立てられて行っている。

先ほど言われた様な備品について、ヘルメットを被って逃げるとか、それが常に用意されていて色々な訓練に用意して対応されているかということは分かりかねる。

波佐小学校の例を言われたが、大きい石見小学校などは400人くらいいると現実的にはないのかと思い、あるもので意識付けをして学校で工夫をしていると思う。

委員

できればタブレットよりも先にヘルメットを準備してほしいと思った。

事務局

今ご指摘いただいたことは学校に確認しておく。

委員

実現は難しいかもしれないが、建替えとか設備とか一挙に解決できないことがあると思うが、金城町の学校は全校改築改修が済んでおり、立派な学校が廃校になって遊休施設になっている。中には公民館として活用しているところもあるが、雲雀丘小学校よりも数段立派な校舎が2つも3つもある。

例えば雲雀丘小学校の児童がバスで旧美又小学校へ通うことはできないか。授業が終われば低学年は早便で、高学年は遅便で帰る。単純に20億円もかけて新しい学校を作るよりはスクールバスを買うとか、他のアイデアを考える必要があると思う。雲雀丘小学校の児童が何年先まであの状況下で勉強をしなくてはならないかと

事務局

思うと可哀想である。30分ほど通学時間がかかるが、そういう考えはできないかと思う。

特に雲雀丘小学校を見ていただいた方は分かると思うが、子どもたちは最初からそこへ通っているので、慣れており、皆と楽しく遊んでいるが、一番新しい旭小学校や国府小学校と比べてどうなのだろうかということと同じ浜田の子どもと比べると非常に格差がある。確かに旧美又小学校も新しく、旭小学校も平成8年や13年に造ったものを廃校にして新築を造っているが、そういった意味では浜田自治区が一番改築が遅れているのが現状である。各自治区は一定期間の中で投資をして学校の設備を更新している。それをしていなかったツケがきている。言われる様に中々旧美又小学校へということは難しいが、少し歩いてもらう様になるが、原井小学校と長浜小学校に分けると原井小学校まで2.0kmほどなので、通学の歩く圏内にはなる。先ほども申した様に受入だと原井小学校も長浜小学校も建設当時より子どもが減っているので、もし雲雀丘小学校の子どもが半分になるか2:1になるかは別として受け入れは設備投資を一切せずに可能にはなる。

地域として学校がなくなるという感情論は別として、単純な数値的な理論で言わせてもらえば雲雀丘小学校については十分、極端に言えば再来年くらいから受け入れは可能である。

ただどうしても雲雀丘小学校が廃校となると地元の了解とか、今後答申でそういった回答をいただいたとしても委員会ですらに計画をしなくてはいけない。方向性は今言われた様に、あれだけの格差がある中で放置は当然できない。お金をかけずに解決をするということであれば校区の分割もありかなと思う。

今言われた様に旧美又小学校の校舎が新しいことも知っており、買い手が中々つかないということもあるが、雪の時期は厳しいものもあるので中々通学は厳しいと思うが、言われた様に今の雲雀丘小学校の状況を見ていただければ少しでも早く改善することが必要であると認識している。

そういったことも含めて答申の中に盛り込んでいただければと思う。

委員

今、委員が言われた様に旭でも同じことが言えると思う。もっと廃校を活用するというのも一つの方法だろうと思う。

会長

今日は資料2-2のところ対象校について説明いただいたところだが、これからいよいよ大詰めを迎えて色々な面で周知をしていか

なければならないと思う。今日のところは視察した3校の件、あるいはまた新たに出された内容について説明をいただいたわけだが、他にあるか。

委員

雲雀丘小学校の校区内のこれから、5年、10年後の雲雀丘小学校があるという体で入学される児童の数は試算しているのか。

事務局

第1回の資料で提示している。ただそれは現在の住民基本情報上の数である。雲雀丘小学校は県職員の関係で数年前までは100人の在校生がいたが、今年度は3人しか入学生がいなかった。見込みと違うこともあるが、示している。

委員

我々が小学生の時代、40年くらい前に雲雀丘小学校はすでに児童が少なく、この様な会があったかは分からないが、その後笠柄団地ができてまた状況が変わった。それ以降20年経って今の状況と考える。原井小学校か長浜小学校のところで、実際今の校区分けでいうとかなり雲雀丘小学校よりのところも今や長浜小学校の校区ぎりぎりのところになっているのかと思う。多分この会でも雲雀丘小学校を改築という話にはならないと思うし、市もその方向では考えていないと思うが、校区が遠くなって通学する児童のことを思うと、先ほど安全管理等の話も出たが、例えばその校区の歩道を整備するとか、市としてもそういったところにお金をかけていただく方向や、スクールバスまでは必要ないかもしれないが、今も第二中学校の生徒は9号線沿いを歩いて通学している。それと同じような状況が雲雀丘小学校地区の子どもが原井小学校や長浜小学校へ行くとなるので、そういった安全面のところ、警察も途中で派出所もないので、協力をお願いするとかしないと、今の状況だとかなり設備的にも厳しい状況がある。

途中から違う学校に行くという児童のことを考えると、保護者の心配もあると思うので、できれば今の児童をなんとか卒業させてあげたいという思いはある。

例えば途中から入学はストップするとか、全学年途中からごっそりそれぞれの学校に離れてしまうのか。そういったことも今の在校生や保護者の方の気持ちも考えていただければと思う。

事務局

統合ありきでも廃校ありきでもないので、今までそういった統廃合があるが、そういった時には、統廃合が決まった2、3年前から合同学習の様なかたちで子どもたち同士が、小さい学校が大きな学校に吸収される様なかたちだとバスを使ったりして行って、その段階で色々な交流をしながら、少しでもまず子どもたち同士が大きい

学習環境の中に慣れるという様なことをしながら慣らし学習の様なことをしている。

安全面も地元の保護者から色々な要望が出る。国府小学校を統合した時には市道の改良、通学路の安全ということではいわゆる街路灯とか防犯カメラの設置という要望等が出ている。

今度距離が、雲雀丘小学校の仮定だと4.0kmは超えないのでスクールバスは中々難しかもしれないが、通学路の安全面については要望が出たからといって100%答えられるかどうかは別として、やはりお互いに協議をしながら通学路の選定も含めて、今までもそういうことをしているので仮に今後そういった話が出れば当然委員会としては予算要求や地域の方と協議をして安全面に配慮をするということはずべきことだと思っている。

また逆にそういったかたちでの答申がいただける様であれば条件付きではないが、安全面に配慮した方針を、ということをつけ加えていただければありがたいと思う。

委員

11月9日の視察に行かせていただいた。3校見させていただいて、私個人的には古い学校であるとか、設備が十分整っていないから教育ができないという様なことは基本的には考えていない。

しかしながら雲雀丘小学校の建物の老朽化、それとあまりにも違う学習環境があり、雲雀丘小学校についてはやはり今までのままではいけないと思う。先ほどから言われている校区の分割という様なかたちが良いのではないかという気持ちでいる。

新しい学校には特別支援の学級が整っていて、そういったところで学習をする必要がある子どもが同じ様な環境で教育ができる、環境が整っているということがこれから先は必要になってくるのかと思う。

そういう環境が中々、十分整備ができていない古い学校についてはやはりそういう環境がある学校に分割して学校に行かれる方が良いのではないかという思いで視察を終えた。

浜田の小中学校は全部給食を自分のところで作らないのか。

事務局

三隅の3校は自校方式で、浜田は全部給食センターで作っている。金城、旭、弥栄もそれぞれ1か所センターがある。

委員

その認識がなかったので、リフト云々の話が給食室へ材料をもって行くのかと思っていたが、全部センターなのか。

事務局

あのリフトは、給食のコンテナを運ぶ。例えば2階の教室には部屋ごとに分けたものに乗せて運ぶことになっている。

委員

先ほども言ったが、十分な環境が整っているだけで十分な教育ができるものではないと思うが、やはり最先端というか、色々な整備の整ったところが良いというところは分かるが、雲雀丘小学校は大変古いという気持ちでいる。

木造でも、年月が経過していても良い学校もあるかと思うが、雲雀丘小学校は随分、床もボールを投げたら隅の方へ行くとかすごく斜めになっており、やはり良い環境ではないなと感じた。

委員

雲雀丘小学校の先々の推移が増えていく過程だと思うが、雲雀丘小学校に在学されている児童で熱田町から通学されている児童が10人くらいいると思う。実際には熱田町は長浜校区だと思う。雲雀丘小学校を廃校して校区を分けるとなった時に熱田町の児童は長浜小学校に行くのか。各個人で決められると思うが、中学校が最終的に第二中と第三中に分かれる可能性もあると思う。

雲雀丘小から距離数でいくと、笠柄町から2.8 km、長浜町が2.2 kmだと思うが結構長いと思う。

通学路も改良されれば、という話もあるが、国府小学校でいうと上府はたぶん4.0 kmないがマイクロバスを出しておられる。これは地元の要請があつてされたと思う。そういった意見がまた雲雀丘小学校からも出るのかと思う。三階小学校の様に山の近いところからくる子もいる。そうした時の分け方をどうするのかということもある。

建物自体が老朽化しているが、美川小学校の校舎も古いと思う。

保護者が心配するのは通学路と学校の環境が一番大事だと思う。その環境が雲雀丘小学校のところはできるかということだけが懸念するところだと思う。ただ、校区割をきちんとするのであれば、先ほどの松原小学校ではないが、中学校が第一中学校に変わってしまうところも、それも含めて変えた方が良いのではと思う。統合に合わせてお互いフラットになる様に変えた方が良いのではと思う。

統合廃校にするか分からないが、この3校含めてどうしてもしないといけないというところがあるが、それに合わせて改良していく必要がある。この資料を見ると結構細かく出されているので、色々聞かれるのではと思う。

個人的な意見でいくと卒業生が12人いるが、できれば雲雀丘小学校を失くしてほしくないという意見もある。通るわけではないが、そういう思いもあるので、極めてデリケートにしていかなければならないことである。

会 長

これから統廃合や校区の色々な問題があるが、そういうところを詰めていかなければと思う。

3 協議事項

会 長
事務局

協議事項の説明をお願いします。

諮問事項の再確認も含めてさせていただきます。

第 1 回目の時にも説明したが、1 に小・中学校の適正規模及び適正配置について。(1) 小規模校のあり方について、(2) 通学条件、学校施設の更新、地理的要因や地域事情等を踏まえた小・中学校の配置及び通学区域の見直しについて。2 に小・中学校の建設計画の基本方針についてということを出している。

質疑応答の中でしていただいたことがずっと積み重なって、このことについて諮問しているの、このことについて毎回毎回少しずつ積み上げていただければと思う。

今日すぐに答えを出してほしいというわけではなく、当然それは難しいと思っているので、順次いただいた意見に対してこちらでも資料を提出しながら、諮問事項の答申の準備をしていただければと思っている。

先ほどの校区の再編についても 1 校だけでなく、最初に申した様に小学校から中学校へは同じメンバーでということが基本にはなっている。

今小中一貫校という話があるが、いわゆる中一ギャップを防ごうということで、小学校から中学校までの流れをスムーズにしようということがある。

そういった意味でも同じ小学校から違う中学校に分かれるということは、おそらく少ない人数同士が大きな集団に入ること、どうしてもギャップが出やすいという状況になる。絶えず同じメンバーが良いというわけではなく、プラスの良い面も色々ある。一般的に言われる中一ギャップを防ぐためにも小学校から中学校へ行く時は、同じ中学校へということもあるので、最初に説明した様にそれが少しできていない状況がある。合わせて雲雀丘小学校で具体例を出してもらっているが、一度にするのか段階を追ってするのかは別にして、そういった諮問の中で答申として入れていただいて、さらにこういった配慮も必要であるということ、先ほど言われた心配な点についても十分な配慮をしてあげたいというかたちで答申に付け加えていただければそれを受けてま

会 長

た委員会でも校区再編をする時期や仕方についても十分配慮をするというかたちになるかと思う。大体今いただいた質問事項がほぼ協議事項に入っているかと思う。

特に諮問事項の再確認ということで説明をいただいた。

この統合振興計画の審議会が平成 29 年度だけでなく、平成 30 年度にかけても十分色々な論議を尽くしていくのだということであった。

今日の資料 2-2 にあった様に、対象校という表現を使っていいか分からないが、小学校 3 校と中学校 1 校が残耐用年数 10 年未満の学校ということで対象校として提示された。これからはこれらを中心に校区の再編や統廃合、先ほどあった色々な関係等々についても詰めていかなければと思う。

それらを総合的に答申していくことになるかと思うが、まだまだ時間をかけていかななくてはいけないのではと思っている。

資料説明の中で協議事項についても含めてお話なりそれぞれ意見をいただいた。その他にご意見等あるか。

事務局

資料として耐用年数を過ぎたり、近づいたりしている 4 校を出しているが、3-1 にある様に、例えば第二中学校もそうだが黄色の C が非常に多い。耐用年数はあるがやはり海風も当たることがあつてか、評価が低くなっている。金城中もあるが屋根はこちらで直したりするので A 評価になっている。雨漏りなどもあったが、今直している。第二中も今後の大規模改修になるかも含めて耐用年数としての候補からは外れているが、建物の傷み具合では頭の隅に置いていただきたい。

委 員

4 校については耐用年数が過ぎたり、近づいたりしているのでなんとかしないといけないということは分かっているが、教育委員会の方針がちらちら見える。耐用年数がないものは廃校とし、他へ分けようという感じに私は受け止めた。

人づくりということは非常に大切なことである。それを簡単に施設がだめになったから振り分けようという、簡単なものではない。本当に学校建築が財政的に無理であるのか、あるいは他のところへ回っているのではないかとかいう様な根本的なことを問い詰めてみないと中々安易に開始してしまうと後々に禍根を残すのではないかと思う。

雲雀丘小学校の話が出ていたが、今後の児童数の推移は正確には分からないということだが、雲雀丘小学校は雲雀丘小学校で古

い校舎の中でしっかり頑張っ、市内でも学力は高い方であると聞いているので、本当に財政的な面だけで考えるというのは問題だと思ふ。

通学区域については前から考えているが、第一中学校や松原小学校の様な元々あったところが一番良かった。それをどうして一番遠い山の上に持っていかなければならなかったか。第二中学校があったのは旧警察署のところである。外ノ浦からも近かったし殿町からも近かったものを原井町に持っていった。そうすると外ノ浦はものすごく遠くなる。松原小学校も同じである。向こうの山の上へ持っていった。殿町の松原町にあったのに、亀山橋の子どもは遠くまで歩いていかななくてはならなくなった。そこに原井小学校が見えるが、自分たちの校区は向こうになる。そういう非常に子どものことを考えていない無計画な校舎建築があったのではないかと思ふ。

したがってまず子どもを第一に考える。お金がなかったのかもしれないが、そういったことが欠けていたのではないかと思ふ。今回の統合審議会でもまず子どもありきで考えてくはないかと思ふ。

事務局

耐用年数については4校あったが、美川小学校については地域性の面から中々難しいと話をさせていただいた。石見小学校については児童数が多く、校舎が古いので建て替えも含めて考慮いただければと思っている。

私も個人的に思っているが、以前から学校を建替えた時に校区を本当は変えるのか協議をすればいいのだが、校区の変更は中々難しいところもある。今言われた様に松原小学校も第二中学校も山の上であり、三階小学校も山に近いところだが、浜田は土地がなくてどうしても山に建てるという当時の事情はあったかもしれないが、ただ既存のところから結構離れたところに造ったにも関わらず校区を変えていなかったことから今結果的にいびつな状況が続いている。今までできなかったことを急にできるか分からないが、それも含めて今回諮問させていただくということをご理解いただければと思ふ。

お金の面だが、いわゆる統合校については国の交付金がある。建替えはこちらの都合ということで交付金等はない。大規模改修については若干の交付金等があるので、耐震と一緒に安全面も含めた時であるが、単純に建替える時だと自分たちでしなさいとい

われるので、非常に難しいところがある。

ここ数年で統合だと、国が示す単価があるが、全体の 1/3 が交付金として補助金や負担金といったかたちで入ることもある。建替えは非常に厳しい。

確かに他にお金を使っているのではないかと言われれば、その辺は皆さんで判断していただければと思うが、委員会としては一生懸命予算要求をして取れるだけは取っている。

中々市全体としては厳しい状況である。エアコンもついていない状況で、どこまでできるかという状態で動いている。その辺はご理解いただければと思う。

会 長

審議会を進めていく中で、財政的な面がまず出てくることであり、財政的な面があまりにも前に出すぎると、支障もある。

学校の統合問題については本当に子ども中心に取り組んでいかなければいけないと感じている。

委 員

旭の学校統合の経験があるが、本当にしこりが残る。相当慎重にやっついていかないと簡単にいいです、あるいはお金がないからということでいくと色々な問題が出てくるので、回を重ねて、あるいは地域住民や校区の意向も聞かなければならない。

そういった点を十分判断しなければならぬが、関心を持っていただいて、進めて集約をしていかなければならないと思う。

会 長
各委員

他にあるか。
特になし。

4 その他

会 長
事務局

その他連絡事項等をお願いする。

今色々なご意見をいただいたが、また必要な資料があれば事務局に言っていただければできる範囲で準備をさせていただければと思う。

最初に申した様に今年度では中々難しいということもあるので翌年度にかかるが、今回色々な意見をいただいている中でそろそろ答申に向けた準備というとおかしいが、少しずつの項目でもいいので出していただきながら付帯意見等、通学路や安全面に配慮すべきということを付け加えるかたちで少しずつ整頓に向けて積み上げをしていただければと思うので、よろしく願いしたい。

会 長

次回からの考え方のお話があったが、今日が 4 回目である。ここから少しずつある程度の集約をしていかなければと思ってい

事務局

る。

何かを絞った中で検討、協議していただければと思う。
今日は前回の視察を振り返って色々な反省をしながら色々意見を
いただいた。

以上で本日の審議会を終了させていただく。

事務局から何かあるか。

非常に天候の悪い中お集まりいただきありがとうございます
た。警報も出ているので、早めにご自宅にお帰りいただいてゆっ
くり休んでいただければと思う。ありがとうございました。